

優しさと、引き受けること

優しさと、引き受けること。

優しさは、
場を荒らさないための振る舞いとして現れる。

けれど、
誰かの時間や未来を考えはじめた瞬間、
それは別の重さを帯びる。

優しさは、悪いものではない。

むしろ、社会を円滑に保つために不可欠な態度だ。

声を荒げず、相手を否定せず、
関係を壊さないように振る舞うこと。

ただし、そこには一線がある。
優しさは、踏み込まないことによって成立する場合が多い。

それは、
「傷つけない」代わりに
「引き受けない」という選択でもある。

一步、前に出る。

それは、ときに角が立ち、
誤解され、
好意として受け取られないこともある。

それでもなお選ばれる行為は、
態度ではなく、負荷を伴う判断に近い。

ここで初めて、
優しさとは異なる質のものが立ち上がる。

それは、
相手の状況を
一時的に自分の側へ引き受けることだ。

優しさは、今をなだめる。
引き受ける行為は、その人の時間を守る。

前者は、空気を保つ。
後者は、関係の奥行きを変える。

似ているようで、
向いている方向が違う。

そして多くの場合、
後者は「やさしくない顔」をして現れる。

やさしきは、離れた場所から差し出せる。

けれど、

引き受けることは、
同じ場所に立つ覚悟を要求する。



Edition — 存在の芯
別景：優しさと、引き受けること

著者：美学思想家 古川玲奈
発行：Raffiné
2026